



## 持続可能な開発目標（SDGs）とキャンペーン

2015 年 9 月の第 70 回国連総会において、持続可能な開発目標（SDGs）を含む「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。教育については、目標 4 で、2030 年までにすべての子どもが質の高い就学前教育、初等教育、中等教育を受け、成人識字率を改善することが目標に掲げられています。



教育分野の国際協力 NGO21 団体からなる「教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）」は、毎年 4 月に展開される「Global Action Week for Education」の実施時期に合わせ、目標 4 達成のための「SDG4 教育キャンペーン」を実施しています。今年は、全国から 3,896 人の子ども・ユース・市民が参加。6 月 14 日には子ども・ユース代表が立憲民主党本部を訪問し、全国から寄せられた提言を伝えました。

## 日本の教育の現状と提案—3 つのポイント

### 1. 子ども参加・子どもの意見の尊重

- ・ 子どもたちは社会で起きていることや政策を理解するために十分な情報が提供されていないと感じています。また、感染症対策において**当事者として自分たちの意見を聴いてほしい**と思っています。
- ・ 子どもの権利条約第 12 条では、子どもに影響を与えるあらゆる事柄について**意見を聴かれる権利**を保障しています。

法律案が「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」に基づくことを歓迎します。子どもが意見表明権を行使する方法や、権利の保障については更に具体的な記述および予算化をお願いします。

### 2. 外国にルーツをもつ子ども

- ・ 外国にルーツを持つ生徒（日本語教育が必要な生徒等）の**高校進学率は約 40～60%程度にとどまる**と推定されています。
- ・ 外国にルーツを持つ生徒の高校進学の実態を知るための公表データは乏しく、早急な全国的な実態調査を行い、政策に反映させることが必要です。

法律案が「全ての子ども」の権利を保障していることを歓迎します。排除されがちな外国にツールを持つ子どもたち、無国籍の子どもたち等への配慮もお願いします。また、現在、学費無償化の対象外となっている外国人学校についても無償化を記述すると共に予算化をお願いします。

### 3. ジェンダー・多様性

- ・ 日本の女性教員の中学校における比率は 44%であるにも関わらず、校長・副校長に占める女性の割合は**わずか 8%**です。これは、学校における「**隠れたカリキュラム**」となっており、固定的な性別役割分担意識や**無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）**を助長しています。

子どもたちが長時間を過ごす学校において、教員の言動はロールモデルとなると共に、子どもたちの価値観を形成します。ジェンダーのほか、多様性ある教員や指導者の育成・配置をお願いします。